

中齋塾 東京フォーラム講話
平成 25 年度 11 回

平成 25 年 12 月 14 日
於 湯島聖堂

安岡正篤先生を偲ぶ会

おはようございます。昨日は安岡正篤先生を偲ぶ会が行われました。聖堂から、石川忠久先生にお出でいただきました。どうも怖いなと思ひまして、怖いなというのは、前も足利市駅に来ていただいた時に「ホームを間違えて、ひと電車遅れたよ」というのがありました。今回は一時間の中でぎっちり予定を詰め込んでいますから、「ひと電車遅れた」と言ったら怖い。忠久先生の都合で遅らせる訳にはいかないので、中齋塾理事長に相談をしたら「大丈夫、適任の方が一緒に行きます」と心強い返事がありました。中齋塾幹事の方に頼みました。ありがとうございました。幹事さんから「池袋のホームで先生と合流しました」と連絡があり、嵐山駅まで中齋塾北関東フォーラムの副理事長が迎えに行きましたのでホッとしました。私は詩吟の藤田先生をお迎えに行きました。

郷学研修所の所長さんがおっしゃっていましたが「今回の偲ぶ会、キラキラしている部分は中齋塾フォーラムさんに、ほとんどして頂きました」と、お礼の言葉がありました。

そういうこともありましたので、今日ご紹介する本は安岡先生がらみで、安岡正篤先生の『人生の五計』です。今日はその話をいくつかご紹介したいと思いますので、先に本をお返しします。

昨日のお話をもう少ししますと、今さっき湯島聖堂の事務局に顔を出してお礼を述べていましたら、やはり周りも氣を使うのですね「ちゃんと忠久先生は行かれましたか」と。「大丈夫、偲ぶ会も本人満足して帰りましたから」と話しました。講演は 96 歳の先生にして戴いたので喜んでいましたと、そしたら事務局の方が「じゃあ若手でしたね」と、いやあ若手と言われても忠久先生は 80 代ですしね、若手とは言わないでしょう。先生はどこに行っても長老という扱いを受けますので、自分より年上の先生がおられるので本人は嬉しかったことでしょうか。そりゃ嬉しかったでしょう。私だって詩吟の会に行けば、若手・若手と言われますもの。

ちなみに今日ご紹介する『人生の五計』の中に書いてありますが、貝原益軒の話を安岡先生は紹介しています。貝原益軒曰く、上寿は 100 をもって上寿と言い、80 をもって中寿と言い、60 を越したものを下寿と言う。上・中・下…並で良いじゃないかと思うのですが、そうしますと渡邊五郎三郎先生も忠久先生もどちらも中寿というところです。五郎三郎先生は上寿に近いですが。長老の先生方が、わずかの年齢差で「上だ、下だ」と言っているのを、こっちから見たらみな同じだという氣がします。もっとも若い子から見たら 60 歳過

ぎたらみな年寄りだという感じがします。

若いまたは歳を取っているといっても肉体年齢と精神年齢は、かなり違います。ここら辺がなかなか判断に困るなという気がします。あるところで聞かれたのは、「お年は?」「どれくらい頭を使いますか?」「お疲れですか」という類のことを色々と遠回しで聞かれて、「精神的に疲れているというのと、肉体的に疲れるというのがありますが、あなたから見て肉体的に疲れていると感じるのか、それとももう頭の方が回らないから疲れていると感じるのか」と聞いたら、そこから先の質問はなくなってしまった。人様に何か質問された時の答え方は色々あるなど、ちょっと余分なことですが感じました。

昨日の五郎三郎先生の講話に面白い話がありましたので、ご紹介致します。

青年海外協力隊は我々が作ったのだという話がありました。「青年海外協力隊を作った時には、どこの国に行っても日本の若者が来てくれて応援してくれるのは有難いとみな喜んで頂いたが、2カ国だけ、日本の若者が来るのは困ると断った国がある。それは中国と韓国でした」なるほどなぁと感じました。

ちなみに韓国ですと北朝鮮が頭の中にあります。今朝の朝日新聞を見ましたら「北朝鮮異例の粛清」という記事が出ていました。張成沢(チャンソンテク)氏処刑、日本では「ちょうせいたく」と読みますけれど、見出しが違うじゃない。北朝鮮異例の粛清ではない、異例の殺人です。何で新聞というのは言葉を変えるのかなと思います。今朝がた、このことについてテレビに出てくる評論家の話を聞いていたら「手順を踏んで、きちんと裁判をして罪が明確になったので諸外国にも分かるように法に基づいてきちんと処刑をしたのだから、金正恩体制が強化されるのでしょう」という言い方をしていました。何だかもっともらしく聞こえる解説をしていますが、もうちょっと何故はっきり言わないのだろう。自分の体制を固めるために、公開殺人をして私に逆らうものがいたら、これこの通り見せしめで自分の叔父であっても殺すよと。殺されなくなかったら、私の言うことを聞きなさいというメッセージを出しているのだという解説を何故しないのかと思いました。これは後のお話に繋がります。

恒例の質問

・一年間を振り返って、嘘をつくことが多かったか、または少なかったか。嘘はついても程々だったな、そんなに酷い嘘はつかなかったと思われる方

程々の嘘だったら良しとしましょう。

・一年間振り返って有難うと言うことが多かった。有難うと言われることも多かった。

・今年をよく健康法を実践したと思う方。これは主観ですよ。

客観的に判断される必要はありません。主観でよいです。

・比較的一年間通して考えてみて、良い日が多かったなと思われる方

良い日が多かったかどうかを天秤にかけないで、良い日が一日でもあれば、良いことを全部拡大してください。

・昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージできた方

これは、良いこと悪いことの質問と併せて申し上げます。例えば、大変悩んだということがあった方はいますか？

(会員) ー仕事のことですが、頑張ったのに達成できていなかったのも、がっかりしたことと、家族が病気になったことです。

身内の方が病気になった。病気になれば当然治って欲しいと思いますし、治したいと思う。仕事上では、あんなに頑張ったのに、ちょっとがっかりしたということですね。

そうするとここで考えることは、夜寝るときに病気について明日のことを過去形で考えると、明日以降病氣は治って欲しいな、治ってもらいたいものだと思えますよね。それは普通の感情だけれども、人間の脳みそで考えますと治って欲しいと思うということは、今、治っていないわけです。今、病氣です。だから病氣ということを意識して寝ると、頭の中では病氣だけを意識する。意識して寝ると病氣が拡大してしまう。

阿頼耶識の世界

阿頼耶識の世界でいきます。病氣が良い悪いは関係ない。病氣であるという事を意識すると病氣だけが膨らむから、未来永劫、治るわけがない。病氣を治したいではなく、もう治ってしまったというイメージでいく。「治って良かった」だと、「治った」という方に焦点があたり拡大していくから、健康になっている状況が拡大していく。

阿頼耶識を寝るときに活用すると、治って良かったな。明日のことを過去形でイメージする時は、良かったということだけをイメージする。良かったが増幅され拡大していく。「明日のことを過去形でイメージしましょう」ということは、「良いことのみイメージしましょう」ということです。

仕事でがっかりしたという方は、がっかりしたから来年は良い年にしようと思える人は、ところが「来年良い年にしようと思おう」ということは、今、良くないということなんです。

今年振り返って良い一年だったかなと思えることは、「良いこと」と「悪いこと」を天秤にかけないで、良いことだけをイメージする。良いことだけが拡大されて膨らんでくるという風に考える。天秤にかけて悪い方が多かったら、悪いことを丸めてフッと吹いてしまうとお考えください。

良い日が多かった一年だな、と思う部分で解説をしました。

明日を過去形でということ、来年はどうでしょうかね。良いイメージで明日を過去形で考える習慣を、身につけて頂くと結構だと考えております。

紹介書籍

『人生の五計』 安岡正篤著 MOKU 出版

朱新仲著『酔古堂剣掃』という本があります。昨日の安岡先生を偲ぶ会で『酔古堂剣掃』を引用しながら挨拶をしました。今日の『人生の五計』も同じ話です。

書齋についての話があったのですが、齋という文字は汚れを落とす、きれい、清浄ということです。今まで自分にたまった垢とか不浄なるものを、きれいさっぱり落としていく。心のシャワーを浴びるという風な解釈で齋があります。

書齋は、そういう場所で書を読む。汚れを落とす場所で書を読むから、書齋といいます。

安岡先生のお孫さん定子さんの話を聞くと、「祖父が書齋に入ると家中がピリピリしておりました」という話がありました。ですから父親が書齋にいと家の中が何となく引き締まる。転じてみれば、亭主というものは一生懸命に学ばなければならない。人間的にも磨く。書齋で学んでいると磨かれていくし、人物ができてくる。

亭主の次は女房で、女房は奥方とか奥さんというけれど、『酔古堂剣掃』の中で書かれているものでは、奥さんはあんまり外にちょろちょろ出て歩かない。ずっと家にいる、奥にいる。奥にいて人間を磨いているから奥ゆかしい。奥ゆかしい人だから奥方、奥さんという風に理解をして頂きたい。したがって奥さんは、奥ゆかしくて人間がなかなか出来た人だなと周りから見られる。亭主と奥方というのは、かくあるべきという風書いてありますが、最近そういう人間が減ってきて悲しいねというのがくっついていました。ただ昨日の偲ぶ会では、亭主と目される男性、奥方と目される女性、みな安岡先生のいわれるような男性女性であろうから、清々しいひと時を過ごしていただくように、御祈念申し上げるとい挨拶を致しました。

人生の五計

今日、中齋塾フォーラムで申し上げる人生の五計、生計・身計・家計・老計・死計は、いくつかございます。

人生はこの生計から始まって、死計に至る。死計に至ってまた循環をしているから、また生計に戻ると説明をしておられます。これは自然のことわりや、このはかりごとをしなければいけないという言い方をしています。

生計は、いかに生きるべきか。

いかに生きるべきかで思い出した人は、藤村操。日光の華巖の滝に飛び込んで自殺をした人です。そこから華巖の滝が自殺の名所になってしまった。人間は死に方によって、後世へ影響を与えるものだな、とつくづく思います。藤村操の自殺の仕方が、後世にかなり影響を与えました。藤村操の巖頭の感を、機会があったらゆっくりお考えください。

身計は、我いかなる職業を選ぶか。

どういう価値観をもって人生に臨むかというのが身計。

家計は、結婚して家庭を持つ。

いかなる家庭を持つか、いかなる夫婦関係、どのように子供を育てるか。家庭をどう作っていくか。面白いことに家計は、家庭が乱れたところの人々が多い民族や国家は必ず滅びるだろうと説明しています。したがって家庭が大事だということです。

老計は、我いかに年を取るべきか、年を重ねていくべきか。

今日の新聞の広告で、今までの老人の概念と違う老人の概念が日本に必要である、ということを書いた本が出ていました。これは日野原先生と同じような本ですね。「新老人」という言い方をしています。

私はお酒を頂かないので良く分からないのですが、老酒というのは、飲めば飲むほど陶然としてくる。気持ちよく酔ってくるというらしいのですが、どうですかね。

(参与) - 美味しい。

美味しいのは良いですね。人間も熟して、老熟してくると良い味が出てくる。良い味が出てくるけれど、顔を見て人相が悪いなと思うことがある。リンカーンが知り合いや自分の子供を官僚に採用してくれと頼まれたら、私は顔を見て雇うか雇わないかを決める。たいがい断るそうです。ある人が人相なんかで決められてたまるか、親から貰ったものだと言ったら、答えは「男は40歳を過ぎたら自分の顔に責任を持つべきである」良い人相になったら自分の責任なので胸を張ってよろしいでしょう。写真家が良い人相のお年寄りの写真を撮るといのは、やはり自然に選ぶのでしょうか。80、90歳になって凄いい悪相のお年寄りはありません。

死計は、我いかに死すべきか。

この死計について面白いのは、前世・後世を信じるか否かというのが、かなり影響するようです。

木内信胤先生が言われたことですが、「前世・後世があると思うかい？」と聞かれた時に、「分からない」と答えるのも立派な答えだといわれているので「分かりません」と答えたなら、君はダメだねというみたいな口調で「前世・後世があると思った方が人生楽しかないかい」と言われ考えてみて、そりゃ死んだら真っ暗で何も分からなくなるよりは、前世・後世があると思った方が確かに楽しいなと思って「はい、そうですね」と答えました。

私はブータンに行った時、輪廻転生という言葉信じている民族は、本当に信じているのだという体感をしました。前世・後世もあるのだろうか、あると楽しいだろうかとは確かに思うのですが、もしかしたらあるかもしれないなという考え方に最近傾いています。これはマヤ文明の考え方の中にあります。過去・現在・未来、未来はその後、過去に繋が

っている。ぐるぐる回っているという考え方。どうもうみな繋がってきている。そこであるかもしれないなという気がしています。

奇跡のりんごを作った木村さんの考え方で、ソウルメイト・魂のお付き合い。前世から魂のお付き合いをしている人が生まれ変わりをして、お互いに助け合ってずっと生きていく。この時代が終わったら、次の時代でもという言い方がごく当たり前に書かれているので、ああ信じている人は確かにいるんだなと感じます。段々そちらの話を真剣に聞くような感じになっています。

安岡先生の中で書かれている中で面白いと思ったものは、若い時には分からなかったような、佳堺（かきょう）を見ると良い。

人生、生きていく上で佳堺を考えてみたら、やはりよい時代に生まれなければいけないけれど、よい人にめぐりあうこと、よい人にめぐりあうとよい循環が始まっていく。

よい人にめぐりあうことが人生必要で、同時によい書物にめぐりあうことが必要。よい書物に出合ったら、山水。よい自然環境の中に身をおくことが必要である。よい人に出会い、よい書物に出会い、よい山水の中で生きていく。これが人生素晴らしい。でも実際の人生の中で、よい人にめぐりあわないことが多いし、よい山水に住むということも、なかなか難しい。だったらよい書物を選ぶことはできるであろう。だから良い書物を選びましょうという考えが『人生の五計』の中に書いてあります。

生計、身計、家計、老計、死計を通じて必要なものは健康です。健康については真向法が良いと勧めています。この間、前橋市で真向法の先生に来ていただいて指導をお願いしました。昨日も安岡先生の偲ぶ会に来られて、色々と動かれていました。一所懸命に案内係や掃除をされたりして、たいしたものだなと思っていましたが「真向法をやっているお陰で健康です。薬も飲んでいません」と言っていました。何度か真向法について話していますが、真向法を実践されている方はいますか。

あまり、これはいませんか。

真向法は良いものですから、されると良いでしょう。体操は4つしかありません。

夜寝る時に呼吸法で真向法をすると良いです。出すのが肝心。よく腹式呼吸法でやっていますと、色々な先生方の話を聞きますが、腹式呼吸の話は分かるようで分からない。簡単な方法があるのと思います。お腹に手をあててお腹を手で押して、口から息を出す、これが簡単な腹式呼吸です。

今、申し上げたことは、だいたい『人生の五計』に入っております。

『人生の五計』の中で健康に関して面白い説明がありました。先ほどの真向法の先生が、安岡先生は人間の健康に関して充電の時間帯があるというのを話していました。

安岡先生の科白で、朝は5時から6時の間に起きるのが良いでしょう。何故なら、肝臓や胆のうがチャージする時間だそうです。

肝臓は、午前1時から午前3時が休んで充電している時間。午後11時から午前1時まで

は胆のうが休む時間であるから、その時間帯は休ませないといけない。

腎臓は、午後 5 時から 7 時までは休みの時間なのでチャージをさせてないといけない。お酒をたくさん飲む方は、氣をつけたほうが良いですね。安岡先生はお酒大好き人間で、いくら飲んでも酔わない。本人の述懐では、最初は飲んでへべれけになって酔払って引っくり返っていた。その繰り返しをしていく内に、いくら飲んでも酔わないようにしようと決めて酔わない訓練をして、結果大酒飲みになった。その本人が「お酒は程々にしなさい」、「5 時から 7 時は飲んではいけない、飲むならちょっとにしなさい」ということを言っています。では、ご飯はどうでしょうか。お酒を飲むのと同様に 5 時から 7 時の間にはおよしなさい、ちょっとにしなさいと書いてあります。腎臓がチャージをする時間帯だからだそうです。

胆のう、肝臓、肺、小腸、大腸、心臓、腎臓それらのチャージの時間帯が書いてあります。今日お返ししている本の 38 ページです。どうぞ、そこら辺も考えて自分の一日の時間帯を決めて頂くと良いでしょう。

来年の展望

季刊誌『知足』新年号に書きました。今回は 2 ページで終わりにしています。来年の干支は甲午（こうご・きのえうま）です。

甲は、『漢字の起源』の加藤常賢先生が書かれたもので、草木の種が膨張してパツと弾ける音。午は馬ですが、杵でトントントンつく音。白川静先生では、午は呪器です。おまじないを唱える時に使う器という説明があります。

安岡先生は、甲は「鎧」という言い方をしています。鎧をつけた草木の根が、その殻を破って頭を少し出したという説明をしています。午は、背くとか逆らうです。

私が書いたものを申し上げますと、平成 25 年季刊誌『知足』1 月号に来年平成 26 年の展望が書いてあります。一年前の新年号は「平成 26 年は殻を破って新しい勢力が芽を出すけれども、反対勢力があり、なかなか伸びてゆかない伸び悩みの年である」と書いてあります。これは訂正をしません。そう思っています。

文字からして来年・甲午は、伸び悩みの年ですので、アベノミクスは停滞をする。失政が続く、足を引っ張る連中が出る。反対勢力がまだまだ出てくる状況だと思います。

一般から見ると、物価は上がる一方、家計は苦しい。税金は前から申し上げていますが、増税につぐ増税。そして目に見えない形で税金は上がっています。後で時事評論でも申し上げますけれど、税金は否が応でも上がるので、どのように庶民は暮らしていけばいいのかという話が、あちらこちらに書いてあります。いずれにしても重税にさらされる年だとお考えくだされば良いでしょう。

今年を表す漢字は「輪」という文字が選ばれたと書いてありましたが、来年は「一触即発」そういう文字だと思っています。一触即発ってというのは、今回の北朝鮮もしかりですし、中国の防空識別権などで見ましても、何かあったら大きな危機が生じる年。ギリギリ綱渡りだというのが普通は分からないでいるはずなのが、日本の国民みなちょっと今年はきな臭い、危ないよという意識が広がっていく一触即発。中国が勝手に決めた識別圏の中に民間機が入ったら打ち落とす可能性がありますよね、現実には打ち落とされた経緯があるから、怖い。民間航空機は中国に飛行ルートを提出しないと、もしかするとやられるかもしれないということで提出する。非常にきな臭いところ、不安定な場所にたっているのだから来年は危ない。自然災害も同じく危ない。今までは、ほんの一部の人がピリピリしていたのが、来年は皆さんがピリピリする一触即発の年。

あと、申し上げておくことは、お互いの相互支援協定を結んでおく必要があると思っています。各自治体は、何市と何市が相互支援協定を結んでいるから、災害の時にはお互いが支援をしあったという話があります。でも個人的に、親類や親族で支援協定を結んでおく必要があるし、友人でもそうだし、遠い地域の人とも支援協定を結んでおく。お互いが信ずるに足る人と支援協定を結ぶのが来年は良いと思います。具体的に困ったら、お互いに助け合う必要があると考えています。

素読論語解説

今の時代に合うぴったりの内容ですね。副理事長が言われた「これが人間のすることなのか」という問いかけ。「何故こうなってしまったのか、これからどうすればよいのか」というお話が先ほどありました。それに対する回答とは言いませんが、コメントを出したいと思います。まず、それを言うのに論語から入りたいと思います。

【一二】子曰く、片言以て獄を折むべき者は、其れ由なるかと。子路 諾を宿むること無し。

子路と孔子が話をするところは、掛け合い漫才をしているようなものだなと感じますが、今回は真面目ですね。あまり掛け合い漫才ではない。子路に対して普段思っていることを素直に評価して言ったと感じます。

獄は訴訟です。折とは判決を下すことです。

孔子は、一方の訴えを聞いて判決を下せるのは子路だけだと言いました。

現在、判決を下した裁判官が理由を説明しますが、ずっと聞いていても分からないし、最後まで聞いても分からない判決文はたくさんあると思っています。子路は訴えられてい

るものを聞いて即決します。訴えている人も訴えられた人も子路様の言うとおりに服しますと、頭から信じる。それだけの人間性を子路はもっているということで、孔子は評価しています。

「子路 諾を宿むること無し」は、子路が承諾した場合は即座に実行する。翌日や翌々日にしないで、その日の内に実行するというので、かなり高い評価をしていると思います。

【一三】子曰く、^{しいわ}訟^{うったえ}を聴くことは吾^{われ}猶^{なほ}人のごとし。必^{かなら}ずや訟^{うったえ}無^なかしめんか。

孔子は、判決判定を下すことは、私も他の人とたいして変わらない。私は訴訟が起きないような社会に力を注ぐことが使命であるといっています。

【一四】子張^{しちよう}政^{まつりごと}を問う。子曰く、之^{これ}に居て倦^{おり}こと無^なく、之^{これ}を行^{おこな}うに忠^{ちゆう}を以てすと。

二十歳ぐらいの若者が七十過ぎた孔子に「政治の要点はいかなものでしょう」と質問をしました。孔子から見ると、この若者はどうも危なっかしいし飽きっぽいと思ったので、「物事は飽きてはいけない。政策を実行するには真心を持って実行する」

私利私欲で行うと失敗するよ、と子張に対して諭したものです。

<時事評論>

おととい・昨日の新聞、今日の新聞を見ますと、今日の朝日新聞一面のトップは「北朝鮮異例の粛清」先ほど異例の殺人と言いましたが、これが人間のすることかと感じました。自分の利益のために身内を殺しても構わないということでしょうね。自分自身の私利私欲のために、こういうことをした。

それから同じく朝日新聞 12月14日付け、「飛行計画提出広がる。東南アジア3カ国も日本孤立の恐れ」なんて書いてあるけれど、中国が防空識別圏をだした。これは何のためにやったのか。私見ですが、中国が自国の私利のために周りに喧嘩をふっかけた。周りに喧嘩をふっかけているのではなくて、自衛のためだと言うかもしれませんが、あくまでも自分の私利のためでしょう。これも人間のすることかということになります。個人個人の間ではなく、国家となった場合はさらにやり方が酷い。

これは昨日の朝日新聞(12月13日付)、「家計圧迫、企業は支援、税制大綱決定」普通一面の右側だけという新聞が多いけれど、こちらの新聞は全部使っている。これは増税の話です。税金の話を一面に使っています。これは何のためにやっているのか。政治家が国民

のためとか国家のためとか言っているけれど、そんなことはない、嘘っぱちなあと思っています。使命感を持っているかもしれないけれども、基本的なものの考え方として重税や酷税、税金を増やすということは、その国を滅ぼす元である。何故、歴史から学ばないのかとつくづく思います。それだけ今の政治家の質は落ちているのでしょう。

『人生の五計』の中にも、昨日の『酔古堂剣掃』の中にも、今の政治家は小粒で困ることが書いてありました。その頃小粒なんだから、今はさらに粒が小さくなっていると感じます。

国家百年の体系を考えないで、目先の私利だけを見て、たぶん自分の名前を後世に残したいとか、我が身を考える動きでしかないから、こんなていたらくなるのだと思います。それを新聞社は、自分たちの新聞の見出しに「生活にしわ寄せ」「不十分な低所得者対策」読んで欲しいがために、こういう書き方をする。たった 1 日の中に税金に関する話が多いこと多いこと。それから同じく 12 月 13 日の朝日新聞で今度は「企業側に向けて企業減税、経済界は評価。税制改正大綱、活性化呼び水」という見出しですけど「軽減税率には慎重論」、何故こういう風にもっともらしい書き方をするのか。こんなもっともらしい書き方すると騙されます。したがって新聞を読む時には、眉唾の記事じゃないの？という風に考えるべきです。新聞は、誤報をしても「ごめんなさい。間違えました」とやらない。記事を訂正する時は、よほど強力な文句をつけた時でなければ「前回の記事は誤報です」というのは、やりません。記事の最後にちょっと書くだけです。ほとんどそんなものは見落とします。それで強く言わなければ、謝罪もなく記事の訂正はサラッと入れておく。何のためか、新聞は自分の私欲のためですよ。

それもこれも皆、我が身、我と我が身、個人のある我が身、国家の我と我が身という考え方で行くから、今日の「何故こうなってしまったのか」という副理事長の問いかけが生まれます。それは、それぞれが私欲だからです。公欲ではない。

そうすると何をしたら良いのか。やっぱり「足るを知る」ということを、それぞれが考えなければいけない。「足るを知る」ということを我々はもっと考えて、世の中に広げていかなければならない時代に入ったという風に考えます。

12 月 1 日の日経新聞ですけれど、「欧州 日曜営業に賛否、宗教団体は反発している」と色々書いていますが、これはスイスではガソリンスタンドの件と、併設した店舗に 24 時間営業を認めるための労働法改正が決まった。24 時間営業をしていきたいが法律で禁じられていた。でも利便性を求める期待が欧州で広がりだした。日曜営業が出来るようになってきた。公欲ではなく私欲ですよ。

全世界、みな私欲で動いている。私欲から公欲に変えていかなければならない。これは、足るを知る、もったいない、おかげさま、ありがとう。これをもっともっと深く分析追求しようと考えています。科学と宗教が融合してくる時代に入ったと思います。

来年、「挨拶」をしたいなと思います。挨拶は、「ご挨拶痛み入ります」という科白があります。前によく挨拶をする時に、その間合いで力をエイッと振り下ろす。その振り下ろした時にピシッと決まるという説明を何度もしました。来年はできれば「ご挨拶痛み入ります」というような挨拶をしたい。そう思っています。

私がどこかでピシッと決まった科白を言う。人に何か言われて、何か私の心の中でピシッと決まった。一本入った。これは参ったぞという時に、ご挨拶痛み入りますと言える。

お互いに心に染み入るような挨拶ができたなら、ご挨拶痛み入りますということにしたい。「ご挨拶痛み入ります」と言えるような科白を言う年にしたいものです。またそれが求められる時代。

我々はどうも挨拶というものを軽く使いすぎているから、挨拶という言葉に重みをもっと持たせたい。そう考えています。

「足るを知る」は、すごく大事なことなので、これを根底に置きながら表面的にどういう生き方、どういう話の仕方が良いか、一本取られたというような、また思わずその言葉を聞いたから身が引き締まる、背筋が伸びるような挨拶をお互い言い合えるような年にしたい。それは仕事の中で、家庭の中で、そういう言葉が聞けると良いなと思っています。

ちょうど良い時間ですね、副理事長が言われたものに関して若干コメントをさせて頂いた感じがしますが、良いでしょうか。

知足を基本にしながら、お互いご挨拶痛み入りますと言えるような時代、国、民族にしていければ良いと思っています。

有難うございました。来年どうぞ良い年をお過ごし下さい。